



写真左から、「にっぽん丸田子の浦港寄港」「森のワークショップ丸火」「一ツ山チエさん富士市紙フェア」

発行者 静岡県議会議員  
鈴木すみよし事務所

2014年12月議会号  
発行日 2014. 12. 29

これからも  
いっしょに  
パワーアップ!



目次:

1. 12月議会 県産業成長戦略に期待 P1
2. 工業港+観光港へ まちの駅への期待 P1
3. 所属する「建設委員会」での質問と答弁 P2
4. 12月議会一般質問 P2
5. 次年度県政予算要望 地元意見に耳を傾ける P2
6. 議会外活動・視察等 P3
7. 富士山女子駅伝 P4
8. 富士地域政策課題と進捗状況(各地の要望) P4
9. ホットなニュース P4
10. 県政相談窓口 P4



富士市全体対象の県政報告会

ハイライト:

- ・大規模地震へ万全の備え
- ・内陸フロンティア推進区域
- ・新成長産業育成と雇用
- ・富士山の魅力発信
- ・危険ドラッグ対策
- ・地域包括ケアシステム
- ・田子の浦港を観光港へ まちの駅でまちおこし
- ・常任委員会における質問
- ・本会議一般質問の詳細
- ・次年度予算折衝に至るまで
- ・第2回富士山女子駅伝
- ・台風18号被害拡大
- ・県がん対策推進条例
- ・今年の締めくくりは「税」

## 1. 12月議会(11/28~12/19) 県産業成長戦略に期待

### ＜大規模地震への万全の備え＞

富士山火山三県(静岡・山梨・神奈川)合同防災訓練2014が10月19日に実施。住民への迅速な情報伝達や円滑な避難誘導などに課題を残し、改善が図られる。また、登山者への情報伝達や安全確保の体制整備を進める。12月の「地域防災の日」を控え、長野県北部地震の教訓から、住民同士の連携や警察や消防の初動体制の重要性を改めて実感した。

### ＜内陸のフロンティアを拓く取組＞

10月に第2次指定したことにより、これまで17市町37地域が推進区域となった。この中には、掛川市の津波避難機能と地域住民等の交流の場となる「森の防潮堤」や、沼津市の防災機能に優れ、市民農園も備えた住宅団地整備等が含まれる。また、「島田市お茶の郷」やリニア中央新幹線の建設、沼津港湾振興ビジョン、台風18号豪雨災害への対応などが議案に上程された。

### ＜新成長産業育成と雇用創造＞

本県の景気は個人消費などにやや弱めの動きがあるものの、基調として

の底堅さを維持し緩やかに回復している。有効求人倍率は本年1月以降1倍を上回って推移し穏やかに改善している。県は次世代産業の創出を進めるため、県産業成長戦略会議を設置。企業誘致や定着を推進するための方策や、人材確保、産業成長のための規制緩和推進会議を設置した。中小企業の成長分野進出支援なども盛り込まれている。

### ＜富士山を活かした地域の魅力＞

富士山保全基本条例を2月議会に上程する予定。2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける県内合宿誘致、ラグビーワールドカップ2019招致、富士山女子駅伝、富士山静岡空港、和の食文化の推進など地域の魅力発信に努めていく。

### ＜健康寿命日本一の延伸＞

危険ドラッグ対策では、販売・流通規制の強化、知事指定薬物の指定や警察官の立ち入り権限の付与など盛り込んだ条例を制定する。医療と介護のサービスが総合的に提供できる「地域包括ケアシステム」の構築に向け新たな基金を設け推進していく。

## 2. 工業港+観光港へ、まちの駅への期待

田子の浦港は、工業港として栄えてきた。圏域内の企業に船舶による貨物輸送が大きな役割を担っている。

富士山が世界遺産登録され、富士山に一番近い港として、ポートセールスを行っている。



客船「にっぽん丸」が500人近い客を乗せ寄港し、近隣を観光した。



「富士市まちの駅ネットワーク」は、気軽に立ち寄り、地域情報と「おもてなし」を提供している。そのまちの駅誕生10周年を記念し、長崎市の田上富久市長から、地域資源の掘り起こしと、それを活かすべき、まちづくりのグランドデザインの実践について講話をいただいた。



「富士市福祉まつり」において毎年バザーを開催する女性グループ。多くの市民が支える。



富士市吉永地区三世交代事業「ふれあいコンサート」は19回目。年齢性別にとらわれず、日頃の練習成果を披露。



富士市のふじかわキウイマラソン。全国から3,000名の参加者が訪れる。天候に恵まれ、富士川沿いを快走した。



吉原まるごとフェスタ。B1グラウンドに出場する地元「つけナポリタン」を始め、近県から数グループが集まった。近い将来、本大会誘致も計画。



しずおかスポーツフェスティバル空手競技大会が開催。特に、少年少女の取り組みには大人も顔負け。2020年東京オリンピックなどが刺激に。

### 3. 所属する「建設委員会」での質問と答弁(●は当局答弁概要)

所管事務全般が質問対象で事前通告は無く当日開示。担当委員として自ら質問を設定。

#### (1) 県道の廃止と認定について(西富士道路関連)

●カーナビなど道路情報は市民生活で重要であるので周知徹底する。

#### (2) 津波災害警戒区域のパブリックコメントについて

●解り易さへの配慮から県民から寄せられたパブリックコメントを生かしていく。

#### (3) 豪雨対策アクションプログラム実施流域の効果検証と原因分析と計画見直し

●短期的に発生する災害を分析し既存計画の見直しなどの対策を講じる。

#### (4) ふじのくに森林・林業再生プロジェクトの体制確認(合板工場への供給体制)

●定時・定量・定質・一定価格の供給実現のための体制を確保する。

### 4. 12月議会一般質問と答弁(今期最後の本会議での論戦)

#### (1) 岳南地域の産業の活性化

地下水の有効利用は、関係市や協議会と十分な意見交換を実施し、既得権の解放や規制地域の区分見直しを検討する。「工業用水事業のあり方検討会」で料金を含め支援体制を検討する。新素材セルロースナノファイバー(CNF)は本県の産業振興のため、研究の成果や先の進展を注視。

#### (2) 富士山噴火時における情報伝達について

県は気象庁の発表する噴火情報を、緊急速報メールで登山者の携帯電話やスマートフォンに自動配信するシステムを、年明け(平成27年)から運用開始する計画である。

#### (3) リハビリテーション専門職の活用について

県は地域リハビリテーション体制の整備を進めている。介護・福祉分野でリハの手法が取り入れられるよう、県の関連会議への参画や地域包括支援センターとの連携により機能回復訓練促進を目指す。

#### (4) 人の身体に影響を及ぼす外来生物対策について

これまで本県で確認された特定外来生物は31種で今後さらに増える予想。情報提供として、生活者の視点に立ったH. Pの立ち上げや、無防備の子ども対策のため、教育委員会にも呼びかける。

#### (5) 認定こども園について

認定こども園は就学前の子どもたちを保育し教育場として、また待機児童解消に有効な施設であるが、移行に進みにくい現状がある。現在、国は支援制度の見直しを図っている。その中で空き教室を利用した小規模保育は、待機児童の解消に対し有効な取り組みであり、市町に働きかけていく。

#### (6) 台風18号被害を振り返っての課題について

東海道本線の興津地区で発生した崖崩れ対策では、年度内を目途に、国、県、静岡市、JR東海等関係機関で構成する「調整会議」を設置し対策の検討を進める。江尾江川のように豪雨災害対策アクションプラン外でも、即効性が期待でき地域の実情にあった対策を市町と検討し実施する。

### 5. 次年度県政予算要望に向けて地元意見に耳を傾ける



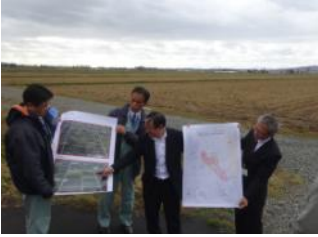
(写真左から右へ順に、地区県政報告会、知事と市議会議員長、知事への会派次年度予算折衝)

毎年、12月後半に自民改革会議から知事に次年度予算折衝が行われる。県政全般に渡り、施策として具体的な申し入れを行うもので、2月までの間数回に渡り、会派全員で、または政務調査会正副会長が当局と調整を行う。2月議会の予算審議前までに予算概要が提示され、申し入れの成果が確認できる。予算折衝前には、各市町からの要望を聞く機会もあり、今回は富士市議会が議決した案件を知事に直接要望する機会も得た。各議員は県政報告会等で直接意見を収集する。



## 6. 議会外活動・視察報告

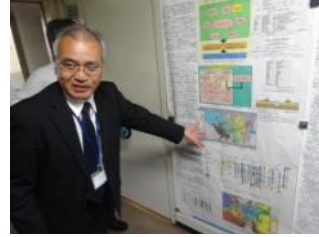
### 県外視察(北海道農政と防災、東京ふじのくに交流会)



夕張郡由仁地区の国営農地再編整備事業を視察。200ヘクタールの大規模圃場と9キロメートルの用水路整備。生産性向上と高付加価値化を学ぶ。



北海道立総合研究機構地質研究所。道内各地でボーリングした資料から、過去の地震古津波堆積物など、いくつもの痕跡が見つまっている。



左と同じ施設。地下資源の適切な開発と利用、各種災害被害軽減、鉱山鉱害など環境汚染防止などの研究が行われている。



静岡県が東京で年一度開催する、情報発信と交流の場。国内外政府機関、企業、文化人など幅広く集まる。写真は県防災補佐官の君塚栄治氏。

### 県内視察(看護の現場と課題、男女共同参画への取り組み、田子の浦港の浚渫)



毎年一度、看護の現場を視察し、医療および介護への取り組みについて意見交換している。今回は、裾野赤十字病院と、富士小山病院を訪問。



県議会超党派で組織する「男女共同参画を支援する議連」で、先進的な取り組みのジャトコ様にて、会社の理念、現場での取り組みを視察した。



左に同じく、富士市大淵で体験型農園(お茶)を経営する豊田由美さんを訪問。茶の加工品など6次産業化を女性の視点で進めている。



田子の浦港に流入する潤井川河口で、浚渫状況を視察。港全体では年間6万トンの土砂が堆積し、多くの公費が投入されている。対策を検討中。

### 県内視察(客船誘致事業、静岡県知事表彰、中部地方治水大会、富士山ネットワーク会議)



清水港に客船誘致で入港した、外国船籍のセブティブミリアム号約90,000トン。12時間ほどの滞在だったが、1,000人近い乗客が近隣観光に出発。



11月3日県庁にて、静岡県知事表彰式が執り行われた。今回は66回目、各分野で県発展に貢献された44名6団体が対象。富士市から3名が受賞。



中部5県で持ち回りの「中部地方治水大会」が浜松アクシティで開催。人命と財産を守る治水事業と、安定水源の確保を目的に開催された。



富士山ネットワーク会議は、富士山周辺の4市1町で構成される、環境や観光、防災など、広域連携で取り組む組織。今回は御殿場市で開催された。

### 地域行事(富士市表彰、市民福祉まつり、農林フェア、市民安全大会)



市の発展に寄与された富士市表彰式典がロゼシアターで開催された。今回は保健衛生功労、産業功労、教育文化功労から各1名ずつが表彰された。



富士市「市民福祉まつり」が、晴天のもとロゼシアター北側の中央公園で開催。企画運営が市民という、まさに福祉都市にふさわしい取り組み。



毎年恒例の「農林フェア」が中央公園で開催。一昨年までは富士市公設市場で開催されていたが、市場の縮小などにより移転。食の豊かさを体験。



「安心のまち今泉」大集会に参加。この時期、他地区でも開催される。交通安全や治安維持など、住民がこぞって確認しあう大切なイベント。

## 7. 2014全日本大学女子選抜駅伝競争(第2回富士山女子駅伝)



昨年に引き続き、富士山女子駅伝が、富士宮市浅間大社をスタートに富士山大淵総合運動場をゴールに開催された。



新幹線と富士山を望む絶景ポイントである第5中継所。今年も富士山がよく見えた。選手には、見る余裕がなかったかも。



ゴールにて。真ん中は大会会長で公益社団法人日本学生陸上競技連合の関岡康雄会長。右端は富士市消防団長。



戦い終わって、参加選手全員で富士山をバックに記念撮影。今年も立命館大学が2連覇。大阪学院、大東文化大の順。

## 8. 富士地域政策課題と進捗状況(各地の要望から)



永年待ち望んでいた、市道富士岡中里線が全線開通。信号設置で大変苦勞したが皆様のご理解で実現。安全運転を。



台風18号被害で富士市南松野血流川が氾濫し、本流から引き込む農業用水路が埋没。来年農耕期までに復旧予定。



台風18号は柏原地区防潮林もなぎ倒した。所有者が不明の林もあるが、倒木の後片付け植林など行政支援が必要



12月の自主防災訓練で炊き出しの準備をする住民。高校生や中学生の心強い応援で、自助・共助の絆が強まる。

## 9. ホットなニュース

### ◆ 静岡県がん対策推進条例(議員発議条例)

静岡県はがん対策を重要課題と位置づけ、がん対策推進計画を策定し、医療体制の整備ほか、がん患者およびその家族の視点に立った施策を展開している。誰もが適切な医療を受けられる体制、がん検診の受診率向上など、県民自らが正しい知識を身につけ、がん対策を推進するため、この条例を制定した。

### ◆ 今年の漢字一字は

毎年恒例、本年の一年の世相を表す漢字は「税」。京都清水寺の森清範貫主(かんず)が揮毫した。消費税に対する国民の関心の表れは納税者の立場から、増税の経済への影響を懸念するものがある。また同時に、自分たちの納めた税が良好に使われているかも大きな関心事であろう。今年は、国会議員も地方議員も税の使い方で不祥事が続いた。特に県議会議員では、兵庫県議会の元県議問題が、氷山の一角であることも明らかになった。襟を正して次へ。



田子の浦港沼川・和田川の河口にある石水門。右のゲートは岳南排水路の出口。今後、港湾防災対策で検討が必要。



大淵地区のクリーン作戦前に住民1,100人が集合。「富士山の環境は自分たちが守る」との力強い声が聞けた。

### ◆ 12月議会で決定した国へ提出される意見書・決議

- ① 産後ケア対策の充実を求める意見書
- ② 地方創生の推進を求める意見書
- ③ 「女性が輝く社会」の実現に関する意見書
- ④ 災害救助犬の育成等に関する意見書

## 10. 県政相談窓口

「県政相談窓口」とは、道路・河川等の整備の他、地域の課題についてご相談を承ります。

市と県、国の担当範囲が明確でない場合もありますが、こちらで調査致しますので、区別なくお気軽に問い合わせ下さい。

ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関に確認し、その可否についてもご返事いたしますが、お時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

### 発行者 静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

県政相談窓口および「らしんばん」発行者連絡先  
 静岡県富士市比奈1418番地の2 ☎417-0847  
 Tel 0545-34-0683  
 Fax 0545-38-0070  
 メールアドレス: himena@tokai.or.jp  
 ホームページ: <http://sumiyoshi.info/>  
 ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/sumiyoshi1956/>



12月  
議会報告

国 県 市

# らしんばん

## 県議 鈴木すみよし



### 身近な県政への実現！地元と県政をつなぎ、地域間競争に生き残る！



川勝県知事と地元県議



川勝県知事と小長井富士市長



県担当部幹部への要望実現

県議としての  
つなぎ役を果たす

県議としての  
責任を果たす

#### (1) 富士市の県に対する次年度要望の説明会

富士市では毎年8月上旬に、県に対する次年度要望をとりまとめ、富士市選出の県議会議員が市役所にて一堂に会し、市長、副市長、教育長、財政部長、総務部長、企画課長から説明を受ける。その要望に対する質疑の他、市政・県政における幅広い意見交換も実現するが、この顔ぶれで集まるのは年1回きりである。

#### (2) 県に対する要望書提出の課題

私がこの説明会に出席するのは4回目であるが、昨年までこの説明会后、要望がどのようにして県に届くのか不明であった。その確認を市に求めたところ、9月頃、市の担当が県の市町村課を訪ね届けるとのことであった。後は、その処遇についてのフォローは地元県議が行うだろうという意図だったかもしれない。市の重要な要望を県議も連携して実現を目指すには、希薄な感じを持った。

#### (3) 県幹部(知事・副知事・担当部長)に誠意を持って接する

提出方法について、市幹部や他県議も問題意識はあまりなかったようであるが、昨年、私が自民党県連の政調会副会長であった経験から、他市の状況を説明し、市から県幹部への地元県議同席での要望活動を求めたところ、知事、副知事が快諾してくれた。

#### (4) 市からの県要望をフォローすべき県議会議員の役割

県財政も厳しくなり地域間競争が激しくなっている。県政全体を見渡す県議会議員の責務は当然であるが、地域を代表する県議会議員でもあり、地元市町と一丸となった取り組みは重要な役割として、地域の生き残りのために再認識すべきだ。

### 地元意見が直球で、次年度県政予算要望に反映！



地区県政報告会・意見交換



県知事と富士市議会議長



県知事への会派全員での  
次年度予算折衝

県議としての  
つなぎ役を果たす

県議としての  
責任を果たす

#### ●毎年、12月後半に自民改革会議から知事に次年度予算折衝

県政全般に渡り、施策として具体的な申し入れを行うもので、2月までの間数回に渡り、会派全員で、または政務調査会正副会長が当局と調整をする。2月議会の予算審議前までに予算概要が提示され、申し入れの成果が確認できる。予算折衝前には、各市町からの要望を聞く機会もある。今回は富士市議会が議決した案件を知事に直接要望する機会も得た。各議員は県政報告会等で直接意見を収集する。

## 官民連携で見えてきた田子の浦港周辺振興と富士市の将来



### (1) 企業が流出するのは単に災害のせい

数年前から、田子の浦港周辺や沼川沿いの企業が生産縮小や他地域への生産設備移転が行われていた。その理由は災害への備えというが、単にそれだけだったのか。今回関わった企業は、それ以外の課題を示唆した。

### (2) 民間の提案はまさに現場の生の声(天の声)

国内外に展開するグローバル企業は、研究施設をここに残したいという願望があった。想像するに富士山世界遺産登録など企業イメージを高める要素もあったかもしれない。社内では一企業としての防災力向上対策などの検討がなされたものの、社員・家族の住環境や社会整備などを高めることは行政の分野であり、企業が地域づくりに参加することの意義、アイデアを持っていたがそれを活かす機会には恵まれなかった。

### (3) 企業と議員、政党支部、商工団体、行政機関との勉強会

まずは、行政機関以外が企業訪問し意見を聞いた。その後、各行政機関と周辺企業の参加を要請し、企業提案の実現のための勉強会を開き、各々が何をすべきかを探った。

### (4) 市・県が支援体制を設置

参加した各々が担うべき役割が見えてきたことと併せ、富士市は窓口となる協議会設置を、県は推進区域指定を決定。

### (5) これからが勝負

民間のアイデアは素晴らしい。それをどう受け止めるか。企業留置実現に地元で活躍する政治家の連携と行政の責任は大きい。



## 12月議会一般質問と答弁（今期最後の本会議での論戦）

### (1) 岳南地域の産業の活性化

地下水の有効利用は、関係市や協議会と十分な意見交換を実施し、既得権の解放や規制地域の区分見直しを検討する。「工業用水事業のあり方検討会」で料金を含め支援体制を検討する。新素材セルロースナノファイバー(CNF)は本県の産業振興のため、研究の成果や先の進展を注視。

### (2) 富士山噴火時における情報伝達について

県は気象庁の発表する噴火情報を、緊急速報メールで登山者の携帯電話やスマートフォンに自動配信するシステムを、年明け(平成27年)から運用開始する計画である。

### (3) リハビリテーション専門職の活用について

県は、地域リハビリテーション体制の整備を進めている。介護・福祉分野でリハの手法が取り入れられるよう、県の関連会議への参画や地域包括支援センターとの連携により機能回復訓練促進を目指す。

### (4) 人の身体に影響を及ぼす外来生物対策について

これまで本県で確認された特定外来生物は31種で今後さらに増える予想。情報提供として、生活者の視点に立ったホームページの立ち上げや、無防備の子ども対策のため、教育委員会にも呼びかける。

### (5) 認定こども園について

認定こども園は就学前の子どもたちを保育し教育場として、また待機児童解消に有効な施設であるが、移行に進みにくい現状がある。現在、国は支援制度の見直しを図っている。その中で空き教室を利用した小規模保育は、待機児童の解消に対し有効な取り組みであり、市町に働きかけていく。

### (6) 台風18号被害を振り返っての課題について

東海道本線の興津地区で発生した崖崩れ対策では、年度内を目途に、国、県、静岡市、JR東海等関係機関で構成する「調整会議」を設置し対策の検討を進める。江尾江川のように豪雨災害対策アクションプラン外でも、即効性が期待でき地域の実情にあった対策を市町と検討し、実施する。

地方自治は国との役割を明確にし、市民の身近なところで責任を果たす行政・政治を目指す

最新の活動情報をブログで配信中。